

新しい制服について

一年A組 長谷川諒・永井晴心

か。そして今の中学生の進学の一つの目安ともなるだろう。

実際に着ている一年生にアンケートを採った結果、様々な意見が出てきた。「見た目が良い」「季節によって使い分けができる」など、制服のバリエーションの多さが魅力的だといった感想が多かった。しかし、よい意見だけではなく「着ると暑い」「見た目があまり好みではない」という意見もあった。そして中にはこんな意見もあった。「何か悪いことをすると制服ですぐにバレてしまう」。これはジェンダーレスを取り入れた制服は有名になっているということである。この制服はテレビでも取り上げられ話題になった。この制服を着て、放課後も、気を抜かずには過ごしていけば地域の人たちからの評判も良くなり、新屋高校の評判にも繋がる。

今回このアンケートでは、良い評価が多く、制服に対しての一年生の意見を聞けてよかった。ただ良い意見だけでなく具体的な意見を書くことができれば、そこから色々な考え方を知ることができた。

ジェンダーレスの制服はまだまだ広がっていない。だが、ジェンダーレスの考え方は、世間では若い人たちを中心に広がっている。モデルやタレント、インフルエンサーたちも自分らしさを貫いている。ジェン

ダーレスは、ファッション業界だけでなく、男女格差がなく多様性を認め合う社会の実現に大きく関わってくる。例えば、女性の保育士は「保母」、看護師を「看護婦」と、同じ職種でも、男女で呼び方が異なっていたのが、男女雇用機会均等法が改正されたことにより、職名は男女の区別なく、統一された。このようにジェンダーレスの考え方は、ファッション業界だけでなく、ほかの職種にも影響を与えている。この考え方がこれからの世界に求められることであり、働ける職も増えれば、この世の中も活性化される。ジェンダーレスの考え方をすぐに広げることとは難しい。だが、少しずつでも、人々の無意識の考え方を変えることができれば、きつと自分らしさを貫いて、自由に生きることができ、世の中も楽しくなっていくだろう。新屋高校の新制服も、ジェンダーレスに貢献することができたのは、とても重要なことである。



新制服についてアンケート

1年生全員にアンケートを実施しました。



ジェンダーレスの一般化 多様性の理解

ジェンダーレスとは、生物学的な性差を前提とした社会的、文科的性差をなくそうとする考え方である。

二年A組 大庭美紅・藤島千夏

ジェンダーレスを浸透させるには、ジェンダーレスとはどういうことなのかしっかり理解している人はあまり多くないと思う。ジェンダーレスとは、生物学的な性差を前提とした社会的・文化的性差をなくそうとする考え方のことだ。性差といってもどのようなことがあるかという点、社会人では同じ職種でありながら男性の保育士のことを保育、女性の保育士のことを保母、看護師の場合は女性を看護婦、男性を看護士と違い、同じ仕事をしても呼ばれ方が違うなど、男女に対して区別されていた。

子どもの制服に関しても男子がネクタイ、ズボン、学ラン、女子がりボン、スカート、

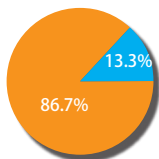
セーラー服など、服装での差別がある。このような性差はどうしたらなくなっていくのだろう。

大人であれば服やメイクを使つて自分自身を表に出すことができる。特にメイクは自分のコンプレックスをかくせたものでもするので女性だけのものではなく男性も使用していい。しかし、自分を表現するということとは勇気がいることだ。日本人は特に多数派にあわせる傾向があり、普通と異なることをすると不思議に思う人もいる。一人一人の個性を理解し、歩み寄ることが必要だ。つまり、ジェンダーレスをより浸透させていくには、少しの勇気とそれを受けとめ理解することが必要だ。

ジェンダーレスを浸透させるには

セーラー服など、服装での差別

①制服の見た目は
気に入っていますか



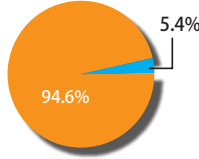
- 気に入っている
- 気に入っていない

②なぜそのように思ったのですか

- いろんな組み合わせで
- 着られるから
- 着やすいから
- 色合いがいいから
- スタイルリッシュで
- かわいいから
- 着替えるのが楽
- 種類がたくさんあり、
- その日の気分や気候に
- 合わせて選ぶことが
- できるから
- 白だけでなくから
- 種類が豊富で選べるから

- 夏服のリボンが小さいから
- 夏服のセーラーの
うしろの襟?が短い
- 夏服のセーラーに
長袖がない
- 生地が薄いため
下着が透ける

③着心地は良いですか



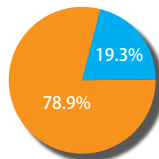
● 良い
● 良い

④なぜそのように思った
のですか

- 動きやすいから
- 生地がよいから
- 涼しいから
- 風通しがいいから
- 着やすいし、生地の肌触りがいい
- 生地が柔らかいから
- 汗が目立たないから
- ワイシャツではシワが付きにくく、硬い生地のワイシャツではないから
- 生地が丈夫だから
- ポロシャツは乾きやすい素材で、Yシャツは少し厚手と工夫されているから

- 動きやすいけれど、服の生地が擦れてかゆくなってしまうから
- セーラーが乾きにくい
- 乾きづらくて暑い
- 生地が痛いからです

⑤パーカーがあるのは嬉しいですか



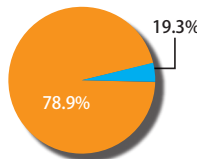
- 嬉しい
- 嬉しくはない

⑥なぜそのように思った
のですか

- 寒さ対策になるから
- オシャレ
- 珍しいから
- 楽だから
- 寒いときや日焼け対策で着れるから
- バーカーが好きだし、この高校に進学したいと思った理由のひとつでもあるから
- 都会の学校みたい
- バリエーションが増える
- 寒いときにすぐに着れるから
- 雨を防げるから
- 簡単に着たり脱いだりできるから

- ベストがあったほうがいい
- 生地が水着みたいだから
- 生地が薄くて防寒になりにくい
- 生地が薄くてポケットがなくて高いから。
- 制服とあまり組み合わせが合わない
- セーターのほうが暖かそう

⑦季節や気温で制服を変えていますか



- 変えている
- 変えていない

⑧新制服について思うことが
あったら自由に書いてください

- セーターがほしい
- パーカーちょっと薄い
- ワイシャツの丈が長い
- 2,3年生が着ているようなセーターやセーラの長袖がほしい
- パーカーにポケットを付けてほしい
- 全体的に値段が高すぎる
- 夏のズボンの素材をストレッチの効く肌触りのよいものかいい
- 透けるのがしうがほしいと嫌です
- パーカーだけでなくカーディガンやセーターもあったらうれしい
- ジーンズでいいと思います
- 中学生に知ってほしい
- 値段が高い
- 制服に關するきまりを明確にしてほしいです
- パーカーの色を変えてほしい
- ネクタイもリボンもワンタッチ式じゃなくて緩さを調節できるようにしてほしい。
- 特にない 最高です
- デザインが多すぎて選ぶのが大変

十八歳成人について

明治時代から約百四十年間、日本での成年年齢は二十歳と民法で定められていた。

江陵

歳未満には禁止されている。▼
十八歳成人について、「賛成」「反対」たくさんの意見があるだろう。だが、その意見は人それぞれ、それぞれの意見であり、私たちは成人としての自覚をもたなければいけない。十八歳は未熟で、社会のことについて知らないことが多い。成人としての自覚もしっかりと持っていない人がたくさんいるのではないだろうか。だが、日本がよりよくなるためには、若い人々の力が必要になってくる。まだまだ子どもな私たちが、これからの社会のことを学び、成人としての自覚を持っていくことが大切だ。

(3A 阿部 みなみ)

今年度好成績を収めている部活について

野球部員にインタビュー

一年B組 平井 優音・越山 未来

今年活躍した野球部のキャプテンに「大会前の過ごし方、緊張のほぐし方」についてインタビューした。誰しも緊張することはよくあると思う。そんな時は、ぜひこのインタビューを参考にしてほしい。



インタビューに応じてくれたのは、野球部キャプテン、浅野脩一（あさのゆういち）さん。浅野さんの大会前の過ごし方は、「しっかりと寝て体調管理に気をつける」こと。確かに睡眠不足だと自分の実力が十分に発揮できなくなる可能性がある。体調管理をしつかり行うことで集中力が高まる。一生懸命練習することも大切だが、休息を取りながら体や心のバランスを整えることも大切なことだ。次は緊張のほぐし方について。「しっかりと練習し、最善の準備をする」。

練習を積み重ねることで自分に自信がつき、緊張がほぐれやすくなる。普段の練習を大事にしている頼りがいのある浅野さん。

そんな浅野さんのキャプテンとしての姿について一年生部員にインタビューしてみた。一人目、島山大輝（はたけやまたい）さんは、「浅野先輩は、ストイックで、すごまじめなキャプテンです！」。二人目、中村裕大（なかもらゆうだい）さんは、「チームの中で一番野球について考えていてすごかっこイイ」。三人目、今野優月（こののゆづき）さんは、「チームのことをよく考えている先輩です」。四人目、戸嶋将（としましよう）さん



は、「女子と会話するのが少し苦手な可愛らしい一面がある」。五人目、近野陽弥（こののひるや）さんは、「とても優しくて頼りがいがある先輩です」。部員からもたくさん信頼を得ている浅野さん。インタビューに答えてくださったことに感謝したい。

理科研究部の活動について

外国からの侵略者に挑む…!!

二年E組 高橋良斗・佐藤拓海

あまり知られていない理科研究部の活動について紹介したい

皆さんは、新屋高校に理科研究部という部活があるのをご存知だろうか。あまり広く認知されていない理科研究部の活動について、今回は触れていきたいと思う。理科研究部部長、高橋良斗さんに話を聞いてみた。

― 普段、どういった活動をされていますか？

高橋 普段は新屋高校周辺のため池調査を行っています。主に二つのため池で調査を行っています。一つは、大森山動物園にある塩曳湯、もう一つは館の丸食堂の隣にあるため池です。― どういった目的で活動されているんですか？

高橋 在来生物の保全活動と外来生物の駆除を目的としています。

― いったいどういった生物が生息しているのでしょうか。

高橋 塩曳湯にはゼニタナゴ、キタノアカヒレタビラ、シナイモツゴといった絶滅危惧種が生息しています。これは、二つのため池に共通しているのですが、アメリカザリガニ、ウシガエルといった外来生物が猛威を振るっています。

― 在来生物保全について詳しくお聞きしたいです。



外来種のウシガエル！

高橋 最近のこれといった活動としては、写真部と美術部と共同で行った「のぼれ！イシダ坂」というイベントですね。私たち理科研究部は、小学生を対象に酵素について授業をしました。二ツジン爆弾を小学生と一緒にやって、楽しそうにしてくれていたのは、やりがいでしたね（笑）。

高橋 ゼニタナゴの稚魚を回収し、養育をしている最中です。大きくなったら、放流する予定です。また、採れた在来生物は動物園側に保護してもらっています。

― 外来生物についてもお聞きしたいです。

高橋 採れた外来生物は乾燥機にかけ、粉々にして肥料にしています。これまではため池の調査についてお話を伺いましたが、それ以外の活動としては何をされているんですか？



秋田県立大学生と一緒に活動する時もあります

― ありがとうございます。最後に皆さんにお伝えしたいことはありますか？

高橋 みなさん、ぜひ、入部のご検討をお願いします！一年生少ないのでぜひ！女子部員も欲しいです…。

めざそう感染者ゼロ！

一年C組 三浦光莉・山内美空

感染がとまらない新型コロナウイルス。感染者を少なくするため何ができるだろうか。養護教諭の豊嶋先生にお話を伺った。

八月三十一日現在、新屋高校の今年度の感染者は38人。換気や手洗い、手指消毒、マスク着用を積極的に呼びかけている。他にも、少しでも具合が悪い場合はすぐに帰らせるようにしたり、朝に検温をしたり、自分の体調を確認する健康観察をするように呼びかけている。特に37.5℃以上の熱があった場合はすぐに早退し、受診するようにお願いしている。

自分ではなく周りの人が感染してしまった場合も周囲の人の安全を第一にすぐに帰すとのこと。外の部活は感染しやすい、中の部活は感染しにくいという先入観をなくし、誰でも感染する可能性があるということに心を留めて行動することが大事だ。外で活動する部

活は外だからといって安心はできないということ。中の部活の人は使用する道具をこまめに消毒する。外で活動する部活も中で活動する部活も共通してできる感染対策は、マスクを外さない距離で話さないということだ。ミーティング中や更衣室内ではマスクを着用するなど、しっかりと対策をしてほしい。

新屋高校のワクチン接種率は二回目を接種した人が43.4%で、三回目を接種した人が27.7%。今後三回目を接種するつもりの人が21.2%、まだ一回もワクチン接種をしていない人は7.8%となっている。各種大会が控えている時期、コロナ感染予防対策を徹底したい。

全員で目標達成に向けて

秋田県SDGsパートナー登録

三年D組 佐々木舞也・河村 怜

― 昨年度からSDGsパートナーに新屋高校が登録されたので、生徒会長の3E菅原るかさんに話を聞いた。

【SDGsパートナーについて】

新屋高校は昨年十一月に県内の公立高校初となる「秋田県SDGsパートナー制度」に登録されました。この秋田県SDGsパートナー制度はSDGsを推奨する県内企業等の取り組みを広く周知することにより、登録を受けた企業等の連携促進、企業価値の向上、競争力の強化等を通じた県内のSDGsの普及、自律的好循環の形成につなげ、官民一体となってSDGsを原動力とした持続的可能な地域社会の実現を図ることを目的としています。

新屋高校では生徒会執行部を中心に多くの校内外の活動をSDGsと結び

付けて、全校生徒一人ひとりが高い意識をもって日々の生活を送っています。

【新屋高校での活動】

新屋高校で行ってきた活動を四つ紹介したいと思います。

一つ目は「ももさだ海岸清掃活動」です。この活動は新屋地区のももさだ海岸のクリーンアップを目的として例年六月と九月に行っています。昨年度からは「海と日本プロジェクト」様からも協力いただいています。毎回とても多くのゴミが集まり、参加した生徒は驚くと同時に地域の海岸を自分たちがきれいにしているのだと誇りを感じられる活動になっています。

二つ目は「使用済みコンタクトレンズの回収」です。アイシティエコプロジェクト様の取組みの一環で、生徒玄関に2か所の回収場所を設けて常時回収を行っています。この活動はリサイクル促進だけでなく、二酸化炭素の排出量削減にも貢献しています。日常

生活でコンタクトレンズを使用している生徒のみなさんの積極的なご協力のおかげでこれまで多くのコンタクトレンズを回収し、感謝状をいただいています。これからもご協力よろしくお願いいたします。

三つ目は「新屋高校SDGsフェスタ」です。これは昨年度に新屋高校生徒会執行部が初めて企画・運営を行ったイベントです。様々なゲームを通じてSDGsについて身近に感じてもらうことも目的として開催しました。行ったゲームはSDGsクイズ・SDGsすごろく・防災クロスロードです。子供から大人まで、老若男女楽しめるゲームですので体験してみたい方はぜひ阿部大輔先生まで！

四つ目は「ジェンダーレス制服」の採用です。新屋高校創立四十周年に向けて新しく採用したジェンダーレス制服ですが、県内外で話題となりました。SDGsの5番目の目標「ジェン

ダー平等を実現しよう」の観点を意識したのですが、それだけにどこまでも変わりゆく新屋高校をも感じられる取り組みとなりました。今年度の一年生には改めて「自由には責任が伴う」のだということを意識して、これからの学校生活を送ってもらいたいです。

以上が新屋高校が昨年度から行ってきた主な活動です。今後は新屋高校で行っている活動を生徒一人ひとりが積極的に行っていきましょう。



学校でも進むデジタル化

学校までも電子化時代

本当に必要？

三年C組 塚田澤空
長内瑞穂

最近急速にデジタル化が広まり、新屋高校にもICT機器が導入された。どの授業でも使用している中、保護者はこれらのことをどのように考えているのか。

現在、私達の身の回りでは、パソコンやスマートフォンなどの電子機器があふれ、誰もがインターネットを使う時代になり、学習でも使われる時代になった。

実際に新屋高校に一人一台、タブレットが配付され、各教室に電子黒板が設置された。では、これらの電子機器を、学習面でのように使っているのか。

また、最近では、授業後に振り返るためにタブレットを使用している。各教室に設置している電子黒板では、情報を画面にうつし出したり、黒板のように使用したりする。また、コロナ禍ということもあり、リモートで全校集会を行う時にも使用している。

このように、電子機器を学校に導入することで、効率よく授業ができた、生徒のモチベーションの向上につながったりしている。また、将来パソコンを使えるようになることや、情報活用能力が身につくといったメリットもある。

しかし、その反対にデメリットもある。それは、インターネットを使う環境を作るために、大幅なコストがかかってしまうことや、何もかもインターネットに頼ってしまう、思考力、想像力が低下してしまうことが考えられる。パソコンを使って文字を打つことになってしまふと、書く力の低下にもつながる。それらの問題を解決するには、調べて終わりでなく、自分で調べたことを材料とし、そこから思考力を使う

で発展させていくこと、書く力の低下に関しては、先生が授業で書く時間とパソコンを使う時間をきちんと分け、バランスよく使用していくことが大切だ。

保護者は、このような時代を経験していないため、興味関心が高まっているのではない。先生や生徒がデジタル化に慣れ、快適に使用している中、保護者はこのような学習方法についてどのように思っているのか。賛成と反対の意見を聞いてみた。

まずは賛成の意見。子どもが楽しく学習している。将来パソコンが使えるようになるので役に立ちそう。反対の意見は、目が悪くなってしまう。ゲームや動画サイトなど学習に関係のないことに使用する人が出てきてしまふと勉強しなくなってしまうのでは。自分で書く機会が減ること、漢字が書けなくなってしまうのではという声もあった。

その不安を解消するためには、保護者にどのように使っているのか、メリットとデメリットは何か、きちんと伝え理解してもらうことが大切だ。例えば、このように新聞で伝えたり、説明会を開いたりするなど。

今後、教科書まで紙ではなく、積極的に電子機器を使用し、誰でも使えるように

なり、学校の勉強も楽しく、そして効率よくできるようになっていくだろう。



新高祭成功への道

新しきを取り入れる

二年B組 遠藤杏奈
伊藤実紗

テーマは「Remake」もう一度、私たちに青春を。「サイハテアイニ」生徒会を中心に「モザイクアート」や「ドローン」を導入した一日目は開会式やクラスパフォーマンスで大きな盛り上がりを見せた。二日目は催し物を行い、文化部の発表展示を行った。

新高祭について

地域見守り隊に挨拶しよう

三年A組 阿久津奏花

私が日新小学校に通っていた頃から活動していたら「地域見守り隊」の方々。皆さんの中にも、下校する時など、見たことがある人もいると思います。とても印象的な黄緑の服を着ています。

この活動はPTAや

町内会、民生児童委員協議会が中心となつて行われているそうです。「地域見守り隊」がいることによって交通事故が減ったり、不審者が地域に入ってくることを防いだりする効果があります。

しかし、現在、隊員の高齢化や、学年ごとに帰る時間が異なることにより、十分な活動ができていない地域がある現状のようです。

今のようなコロナ禍や高齢化など厳しい状況の中でも子どもたちの元気な笑顔を守るために活動してくださっている見守り隊の方々には感謝しています。新屋地区の治安がいい理由のひとつとして、「地域見守り隊」の活動があると思っています。

だから、毎日帰り道に立っけてくれる「地域見守り隊」の方々に、感謝の気持ちを込めて挨拶をしましょう。

学年トップをとる準備

やる気の引き出し方

まず、テストの勉強に入る前にやる気を引き出さなければならぬ。勉強のやる気が出ない理由としては、「環境」「疲労」「睡眠不足」「完璧を求めすぎている」「勉強した先の目標が見えない」「勉強の仕方が分からない」。

由でも記載したように、学習環境に現在行っている勉強以外のものが視界に入ること、最低限デスク周りは今こなししているもの以外は視界から排除するべきだ。

最後に、息抜きをすることだ。どんなに勉強へのやる気もなまぎっていても、息抜きがないとやる気は持続しない。しかし、いきあたりばったりの息抜きをしていると、自分にあまが生じて、息抜きがサボりになってしまふ。曜日や時間を決めて息抜きをする時間を

明確にすることによって、その時間までは「頑張ろう」というやる気に繋がる。これらを意識してスムーズに勉強と向き合おう。



「勉強は未来に繋がる遊びだよ(笑)」
3E 齋藤翔真・須田祐翔

白熱した試合

全力で挑む新高生

校内体育大会

一年D組 田口琉奈
福島乙花

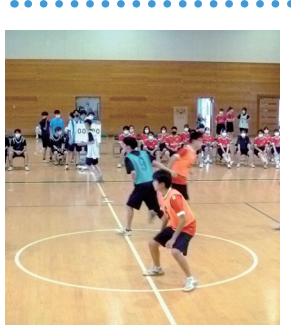
生徒会体育委員の頑張りと、体育祭の様子と優勝クラスを紹介したい。

新屋高校の校内体育大会は、八月二十四日の水曜日から八月二十六日の金曜日までの三日間行われた。競技種目は、バスケットボールや卓球、サッカーなどの六種目で、毎回白熱した試合が繰り広げられた。

今年度は各学年ごとに試合を行った。優勝したクラスは、一年生が一年D組。二年生が二年A組。三年生は三年A組であった。こうして見ると、一年生は別として、二・三年生は教養クラスが強いことが分かる。体育館はものすごい熱気に包まれ、その熱気に包まれて、応援の声を上げて、拍手や選手の声出したら、クラスが一体になっているのが見えてくる。

そんな中、裏で頑張っていた人達がいるのをみながら、それは、生徒会と各委員会

の人は。生徒会では、動画の配信、配信がしっかりと行っていた。そのお蔭で、教室の中で他クラスや他学年の配信を見ることができた。体育委員は、メンバーを出したり、体育館の椅子を出したりと、体育祭を楽しむための準備を行っていた。放送委員は、スムーズな移動ができるように放送で移動の指示を出していた。



3A クラスパフォーマンス



「新屋高校と地域のつながり」
新高インタビュー 一年E組 富樫芽依・齊藤妃桜

速報!!
新屋の地域つながり特集

ももさだ海岸ボランティアは「海と日本プロジェクト」と共同で行っており、年々参加する生徒が増えている。「地域コミュニケーション」は二年の教養クラスにしかない科目。学校外で、地域のひととたくさん関わっている。また、新屋地区オススめのスポットとして、館の丸食堂の「新高うどん」を紹介する。

六月のボランティアに参加した一年E組の加藤さんにインタビューをした。

ももさだ海岸ボランティアは「海と日本プロジェクト」と共同で行っており、年々参加する生徒が増えている。六月のボランティアに参加した一年E組の加藤さんにインタビューをした。加藤さんは「小さい頃から海が好きで、掃除やゴミ拾いなど、地域活動が好きです。ボランティアを通じて、地域の人と関わることができて、とても楽しいです。また、館の丸食堂の「新高うどん」が大好きです。ぜひ食べてみたいと思います。」と語っており、それがやがていになったそう。年々参加する生徒が増えていることから、より一層多くのゴミが見つかるのではないだろうか。次に、二年A組担任の島

すめスポットは「館の丸食堂」だ。先生曰く、新屋地区に住んでいる人なら、誰もが知っている食堂だ。毎年、新高祭二日目に販売されているホルモン定食などは、この食堂で作っている。生徒からも先生からも大人気のメニューだ。そんな美味しい商品がたくさんある食堂の中でも先生がおすすめるメニューは「新高うどん」だ。新高祭で販売され、好評だったため、実際に店舗でも期間限定で販売された。先生が言うには「店舗でも美味しいうえに、店舗に行っても食べることができない人も来年の新高祭でぜひ食べてみたいと思う。」

最後に、一年E組の新屋地区に住むMさんとKさんの二人におすすめるスポットを聞いてみた。Mさんは大森山動物園、Kさんは帯状近隣公園、どちらも友達や家族など、どんな人に行っても楽しいと思う。思いつく限りこの二つのスポットにぜひ訪れてみてほしい。

最後に、一年E組の新屋地区に住むMさんとKさんの二人におすすめるスポットを聞いてみた。Mさんは大森山動物園、Kさんは帯状近隣公園、どちらも友達や家族など、どんな人に行っても楽しいと思う。思いつく限りこの二つのスポットにぜひ訪れてみてほしい。

「ウクライナに高校生ができること」

私たちとウクライナ

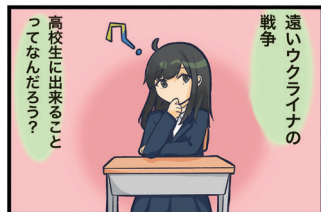
二年C組 又吉 美月

「難民を助けるために」ロシアからウクライナの軍事侵攻により、多くの難民が出た。その難民へ、私たち高校生にできることは「募金」「状況の発信」だ。

今年の二月二十四日に突然ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まった。ウクライナとロシアの兵士から住民まで多くの死傷者が出た。また、数百万人もの人が家を失い、国外に逃れた。そんなウクライナの現状を取り上げること、ウク

私たちが出来ること

2年C組 青山春香



ライナに関心を持つ人が増え、少しでも力になれるのではないかと思います。私たちがウクライナに高校生ができることは主に二つあると思います。一つ目は、募金をすること。お金による寄付は一番必要な活動に利用できるため、幅広い用途で支援活動に活用してもらえると嬉しいと思います。場所や時間を気にすることなく、インターネットでいつでも自分のタイミングで支援をすることも、もう一つのメリットである。今年四月から、ウクライナへ日本政府が開設した専門口座には、一ヶ月で約一千万円、およそ五十一億円の寄付金が集まった。

二つ目は、ウクライナの状況についてインターネットで発信することだ。今はインターネットを誰でも気軽に使えるようになってい

自販機の呼吸の型

ココロラ 水茶・炭酸飲料 8割パン・種類増 カロメ インスタント商品 コーヒー増

筆記用具など ※筆用具: ケシゴム、シャーペン、シャープペン、くつ下、Tシャツ

私達の身近にありどこにでも置かれており、生活を支えてもらっているというとても過言ではない。そうそれが自販機である。今や自販機には色々なレパートリーがあり、商品の多様化も進んでいる。現代の自販機は千八百年代後半の産業革命後のイギリスで初めて誕生した。当初は飲料のほかに菓子、食品、チケット、タバコなどがあった。基本的な技術もこの頃に開発された。世界最古の自販機は古代エジプトの「聖水自販機」だといわれている。日本に普及したのは千九百年代アメリカの大手飲料メーカーが日本に進出したのをきっかけ

に広まった。新屋高校にはパンの自販機もあり種類が豊富だが、新屋高校生が自販機に置いてほしいものをアンケートしてみた。定番からちょっと変わったアイデアまであったので紹介していきたい。自販機といえばコレ「ココロラ」。これは残念ながら新屋高校にはない。「置いてほしい」や「コーラ飲みたい」といった多くの声があった。他にも、文房具やシャツ、インスタント食品など。またパンの種類を増やしてほしいという意見もあった。今の時代は自販機が多様化が進んでいるので、こういった案を取り入れるのは新鮮で、学校生活がより楽しくなるのではないかな。

「先生へのインタビュー」

各学年主任&総務主任の先生へインタビュー!!

二年D組 鎌田 菜瑚・加藤 菜々海

先生たちの学生時代

各学年の主任と総務主任の高橋健先生にインタビューしてみた。生徒と接するうえで心がけていること、子どもの頃の夢、夏休みどのようにすごしていたか、どうして先生になったのかという四つの質問に答えていただいた。この記事を生徒たちと話すきっかけにしてみてもいいだろうか。

Q 子どもの頃の夢は？
A 自立すること。
Q 学生時代の夏休みはどのように過ごしたか。
A 帰省した親戚と一緒に海の家に行き、カニを食べたりした。
Q どうして先生になったのか。
A 数学がおもしろいということをお母さんから教わったから。
Q 生徒と接する上で心がけていること。
A 生徒の話をよく聞くこと。

Q 学生時代の夏休みはどのように過ごしていたか。
A 部活しかやっていなかった。(野球部)
Q どうして先生になったのか。
A 学生時代で関わった先生がとていい先生で、その人の影響で先生になろうと思った。
Q 生徒と接する上で心がけていること。
A 何年先輩も生徒が自分のことを思い出せるような存在でありたい。

Q 学生時代の夏休みはどのように過ごしていたか。
A 部活をしていた。(吹奏楽部)
Q どうして先生になったのか。
A 尊敬する恩師にあこがれて。
Q 生徒と接する上で心がけていること。
A 「おはようございます」と、朝のあいさつをしつかりすること。

Q 学生時代の夏休みはどのように過ごしていたか。
A 高校の時に三年間とも予備校の夏期講習に通わされていた。
Q どうして先生になったのか。
A 大学では教育学部だったため、周りには教員志望が多く、何となく「学校の先生もいいかな」と考えていたら、いつの間にか先生になっていた。
Q 生徒と接する上で心がけていること。
A 常に「私へのリスレク」があるかどうかをチェックしている。(笑)